

多職種のネットワークで支えあい伴走型支援を作ろう！ 東京子ども等支援・連絡協議会多摩「のびのび育ちの会」

梶原 厚子

株式会社スペースなる

地域包括ケアシステムが子どもへと広がりを見せている昨今、2018年度の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等のトリプル改定では医療、訪問看護、介護、福祉、教育、保健などが連携しやすくなる施策となりました。子どもの地域包括ケアシステムの特徴として広域のサービス利用と地域密着型サービスの利用が必要なため、コーディネーターの存在があいまになりがちで根拠法や所管する行政も多岐に渡り、一体的な支援が受けにくい状況にあります。その担い手として注目されているのが、相談支援専門員と医療的ケアコーディネーターです。医療的ケアコーディネーター養成研修等事業は都道府県により開催されて、連携の構築と医療的ケア児等の地域生活支援の向上を図ることを目的として人材養成、協議の場の設置が求められています。これらは都道府県を中心に広域性をもって進められていくことと思いますが、地域包括ケアの質の担保は、暮らしに密着した社会資源でありその資源の支え合いや連携から連動して湧き上がるような多職種の伴走型支援とアウトリーチ機能を持っている街づくりが大きな鍵を握ると考えています。そこで当社（株）スペースなる）2017年9月に起業し2018年4月、Tamaステーション訪問看護事業・福福研究研修事業・子ども等支援事業の3つの柱になる事業をスタートさせ地域活動を開始しました。それと同時に多職種交流の協議の場が必要だと考えて、「東京子ども等支援連絡協議会多摩（以下協議会）を発足。代表世話人を東京都立小児総合医療センターの神経内科医長で総合診療科・在宅診療科を兼務されている医師にお引き受けいただき当社の子ども等支援事業部に事務局を設置して運営に関わっています。専門分野に限定せず、実態に合わせて横断的に地域を俯瞰できる協議会の存在が必要だと強く感じ、偶数月に協議会主催で「のびのび育ちの会」を開催しています。子どもたちのニーズを把握し支援するシステムを維持していくには圧倒的に支援者数が少ないので、支援する人を支援するシステム作りを目指したいと考えています。ICTを活用すれば全国的な活動にも広がっていくことが可能です。多職種、異業種が知恵を出し合って縦横無尽に張り巡らせる人と人のネットワークで継続性のある伴走型支援を目指しています。